

生出中

伝統の神楽 保存会に学ぶ



これがイチオシ

生徒会でSDGs活動

生出中学校の生徒会スローガンは、「Progress」です。「進歩」や「前進」といった意味が込められています。生徒会執行部は「身近な生徒会」を目指して新聞を作成し、発信しています。また、活動の一環として、「生出中SDGs（持続可能な開発目標）活動」にも挑戦しています。

生出中は生徒数が少ない学校ですが、学年関係なく仲が良く、笑顔の絶えないすてきな学校です。これからさらに発展することを願い、みんなで力を合わせて「前進」していきます。

学校名 仙台市立生出中学校
所在地 仙台市太白区茂庭中ノ瀬西2の2
創立 1947年
電話 022(281)2333
校長 大倉 秀之
生徒 43人

生出中学校では、1、2年生が「生出八幡神楽」の勉強をしています。生出八幡神楽は明治24年頃、熊野堂神楽の当時の師匠から生出の氏子10人に伝授されたと言われ、戦時中や戦後の混乱期にも継続して毎年の例祭に奉納演舞されてきたそうです。現在も地域の例祭で披露される伝統の神楽は、仙台市の無形民俗文化財にも指定されています。

練習には、地域の保存会の方々をお招きし、しの笛や太鼓、舞などを教えていただいています。



神楽を披露する生徒たち

編集委員 鈴木希美、岡村美瑛、橋本晴人、坊良輝(3年) 阿部悠生、叶葉輝、佐藤恒希(2年) 指導教員 植野樹也(転任)、鈴木真生

秋の文化発表会で披露

わが校わがまち スクール通信



今回は
色麻小(色麻町)
荻浜中(石巻市)

「よしこの塩釜」踊り継ぐ

塩釜二小

振り付けやかけ声工夫

みなさんは「よしこの塩釜」という言葉を聞いたことがありますか。よしこの塩釜は、代々受け継がれてきた踊りです。塩釜第二小学校では、5、6年生が中心となり、踊りを練習しています。毎年、運動会や「塩釜み」と祭りで披露されていて、地域の方々からも人気があります。1989年の祭りから市内の全小中学校の参加が始まり、33年間にわたって伝えられてきました。今では学校ごとにアレンジを加えています。

本年度は「よしこの塩釜」

釜実行委員」が中心となつて振り付けやかけ声を工夫し、より迫力のある踊りを目指して練習してきました。先月の運動会では、新型コロナウイルスの影響により、十分に声を出すことができませんでしたが、その分、息の合った動きで見ている人に楽しんでもらえるようにがんばりました。7月に開催される塩釜みなど祭には、みなさんにもぜひ見に来てほしいと思います。これからも伝統ある「よしこの塩釜」をずっと受け継いでいきたいです。

運動会で伝統の踊り「よしこの塩釜」を披露する5、6年生



編集委員 佐藤音夢、只野涼花(6年) 佐藤里桜、斎藤英美江、吉田樹(5年) 指導教員 沼田和也



これがイチオシ

色あざやか 壁画アート

本校の昇降口には、すてきな壁画アートがあります。塩釜市の市制施行80周年を記念して、昨年度制作されました。デザイン監督は、仙台市出身のアーティスト朝倉弘平さんです。6年生のアイデアをもとに、塩釜高校美術部の方々と仕上げました。

壁画には、さまざまな生き物や四季の景色があざやかな色で描かれています。完成時には、お笑いコンビ「サンドウィッチマン」も来校し、テレビで紹介されました。これからも大事にしていきたい学校の宝物です。

学校名 塩釜市立第二小学校
所在地 塩釜市小松崎10の1
創立 1925年
電話 022(362)2221
校長 相沢 武弘
児童 456人